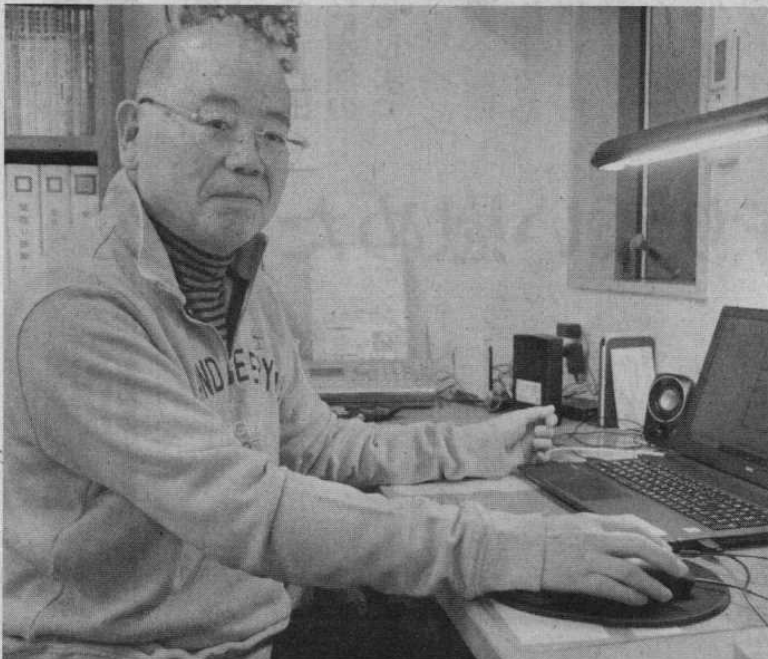


南日本新聞

2024年（令和6年）1月14日 日曜日

都城市蔵原町の元工業高校教師、栢元博文さん(73)が退職後の2011年10月から社会貢献として取り組む新築住宅施工前の「間取り診断」が開始12年余で、全都道府県からの依頼を達成した。件数は累計1200件に及ぶ。

希望の家へアドバイス



パソコンで間取り診断の作業をする栢元博文さん
＝都城市蔵原町

都城市
栢元さん

社会貢献、12年で1200件に

間取り診断 全国から依頼

1級建築士の資格を持つ栢元さんは、「施主が完成後に後悔することのないよう、手助けしたい」と、徒の間取り案を採点していった経験を生かし、「セカン

ドピニオン」といえる診断を始めた。

施主の家族構成や生活スタイル、建物に求める条件を聞いた上で、住宅メーカーなどが作成した平面図や配置図を提供してもらい、施主の希望により近づくよう改善策をアドバイスする。

新型コロナウイルス禍が始まって以降、玄関から手洗い、着替えと進む動線の確保やファミリークローゼット設置、在宅ワーク場所に関する要望が増えたという。また、コロナ禍は栢元さんの作業環境を変える機会にもなり、紙の診断書を完全オンライン化。出先でもノートパソコン1台で仕事ができるようになった。

利用者からは「不安が解消できた」「具体的に改善を求めることができる」と感謝の声が届く。栢元さんは「喜んでもらえるのが励みになる。健康な限り続けたい」と話した。料金は5千〜9900円。ハウス設計 <https://house-sekai.com/>。（深野修司）